## 2014卒業試験 Cブロック再現

1.	. 神経性食思不振症の症候でないもの		a		
	a	妄想			
	b	強迫			
	С	衝動			
	d	抑うつ			
	е				
ก	四极	<b>数仏部について記っていてものた</b> 認べ			
э.		筋代謝について誤っているものを選べ 乳酸を収縮のための ATP 合成に使うことができる	е		
	a 1-				
	b	脂肪酸を収縮のためのATP合成に使うことができる			
	C	インスリン非依存性にグルコースを細胞内に取り込むことができる グルコースを利用してグリコーゲンを合成できる			
	d				
	е	糖輸送体は GLUT1 である			
7. 重症アルコール依存症の治療で間違っているもの一つ			$\mathbf{c}$		
	a	個人精神療法			
	b	断酒会への参加			
	c	飲酒量の適正化			
	d	ビタミンB群投与			
	e	ベンゾジアゼピン薬への一時的な交換			
8	Park	inson 病で見られる症候を2つ選べ	c o		
0.	8. Parkinson 病で見られる狂疾を 2 つ選べ c, c				
	b	視覚障害			
	c	嗅覚障害			
	d	入眠時幻覚			
	e	起立性低血圧			
	C	NE -1/- 1- 1/- 1/- 1/- 1/- 1/- 1/- 1/- 1/-			
9.	錐体	外路症状をきたす疾患として誤っているものはどれか。	e		
	a	パーキンソン病			
	b	多系統萎縮症			
	С	大脳皮質基底核変性症			
	d	lewy 小体型認知症			
	е	筋強直性ジストロフィー			

11.	上膝の屈曲に関わる筋肉を $3$ つ選べ ${f c}, {f c}$		
	a	大筋	
	b	薄筋	
	С	大腿四頭筋	
	d	半膜様筋	
	е	大腿二頭筋	
15,	、小児の自己免疫疾患で正しいものを2つ選べ		b, e
	a	小児皮膚筋炎はASOが上昇する	
	b	MCTDでは、抗U1-RNP抗体が陽性となる	
	С	JIAの治療薬の第一選択は副腎皮質ステロイドである	
	d	RFの関節症は、一つの関節に限局する	
	е	JIAの全身型は、血清フェリチンが上昇する	
18.	. 心房中隔欠損で正しいもの三つ		b, d, e
	a	左室拡大	
	b	固定性二音	
	С	右第二弓拡大	
	d	右室拡大	
	е	若年では無症状で経過	
19.	急性膵炎で見られない症状を一つ選べ。		c
	a		
	b	<b>発熱</b>	
	С	低血糖	
	d	背部痛	
	е	上腹部痛	
20.	潰瘍性大腸炎で正しいものを2つ		d, e
	a	肛門病変がみられる	
	b	狭窄、瘻孔がみられる	
	С	敷石状配列、縦走潰瘍がみられる	
	d	大腸からの連続性の病変がみられる	
	e	10年で大腸癌になる可能性がある	

22.	.次の中から関係のない選択肢を選ぶ。				
	a	自家移植 — E.D Thomas			
	b	センダイウイルス ― 石田名香雄			
	С	ATL 一 日沼頼夫			
	d	モノクローナル抗体 ― 利根川進			
	е	IL-2 受容体 — 菅村和夫			
23.	褐色	細胞腫に特徴的ではないのはどれか。	c		
	a				
	b	下痢			
	С	肥満			
	d	耐糖能異常			
	е	起立性低血圧			
25.	鉄欠	乏性貧血で正しい検査所見はどれか	c		
	a	網赤血球の増加			
	b	鉄総結合能の低下			
	С	血清フェリチン低下			
	d	ヘプシジンの上昇			
	е	赤血球浸透圧の低下			
28.	10	8I27 後天性免疫不全症候群〈AIDS〉の併発疾患でないのはどれか.	e		
	a	サイトメガロウイルス感染症			
	b	ニューモシスチス肺炎			
	С	口腔内カンジダ症			
	d	悪性リンパ腫			
	е	プリオン病			
29.	29. 103A12 睡眠薬依存の離脱症状として出現するのはどれか. 2 つ選べ. B, e				
	a	過食			
	b	不安			
	c	強迫			
	d	誇大妄想			
	e	けいれん発作			

31. 107	B12 正常皮膚の保湿に最も重要なのはどれか.	a
a	角質層	
b	顆粒層	
С	有棘層	
d	基底層	
е	乳頭層	
32. 106	A8 肝胆膵疾患とその原因の組合せで正しいのはどれか.	a
a	胆道癌 一 先天性胆道拡張症	
b	膵管癌 - 原発性硬化性胆管炎	
С	Gilbert 症候群 - 胆囊炎	
d	Mirizzi 症候群 - 十二指腸傍乳頭部憩室	
е	Lemmel 症候群 - 胆囊結石	
42. 104	C1 わが国の自殺について正しいのはどれか.	c
a	女性に多い.	
b	独居者に多い.	
С	手段として縊頸が最も多い.	
d	自殺率は九州地方が最も高い.	
е	自殺者数は年間 5 万人を超えている.	
44. 72 5	男 物忘れ 変なものがみえる	d
a	アルツハイマー	
b	脳血管性認知症	
С	前頭側頭型認知症	
d	レビー小体型認知症	
е	パーキンソン病	
45. 75 点	歳女性. 最近まで健康 二日前から急に意味不明な言語	
診察時、	覚醒は良好だが医師の指示が理解できず、意識評価不能	
ジャルコ	ゴン言語 右下四半盲である. 病変はどこか?	e
a	右海馬	
b	左頭頂葉内側	
С	左前頭葉シルビウス裂周	
d	右頭頂葉	
е	左側頭葉から後頭葉	

46. 105G558月上旬のある日. 午後3時過ぎに、都市部にある中学校の生徒8人が相次いで、頭痛、咽頭痛、咳、目がチカチカするなどの訴えで来院した. いずれの生徒も校庭でクラブ活動をしていたという. 天気は快晴. 気温  $35.2^{\circ}$ C、湿度  $60^{\circ}$ C、風向および風速は南南西の風 1.2 メートル/秒であった. この現象の原因物質の生成に関与するのはどれか. 2 つ選べ. c e

- a 硫化水素
- b アンモニア
- c 二酸化窒素
- d ダイオキシン類
- e 揮発性有機化合物

統合失調症の三連問

50. 治療として正しいものを1つ

抗精神病薬

52.55歳男性、3週間前に歯科治療を受けた。1週間前から発熱と労作時呼吸苦あり、増悪してきたので来院。体温 38.5℃、脈拍(忘れた)、血圧 126/60、聴診で心尖部に収縮期雑音を聴取診断の確定のために必要な検査は。 a

- a 心エコー
- b 胸部 CT
- c 免疫血清学的検査
- d 心臓カテーテル検査
- e PET

54.27歳の初妊婦。妊娠経過異常なし。40週1日に5分間隔の周期的子宮収縮を主訴に来診し、入院となった。入院3時間後に破水し、その際の内診で子宮は全開し、先進部は大泉門(第二回旋あり⇒小泉門?)に触知した。矢状縫合は第2斜径に一致した。軽度産瘤を認め、ステーションは+1だった。 d?

- a 高位縦定位
- b 第一前方後頭位
- c 第一前方後頭位
- d 第二前方後頭位
- e 第二前方前頭位

57.3 歳男児。遺伝性疾患。両親と祖父母は健康。近親婚なし。母方叔父と叔母の長男が同じ疾患。この疾患と遺伝形式が異なるものを選べ。XR c

- a 血友病 A
- b Hunter 病
- c von Recklinghausen 病 AD
- d 副腎白質ジストロフィー
- e Duchenne 型筋ジストロフィー

- 62. クローン病 病理画像で見られるものは?
  - a 非乾酪性肉芽腫
  - b 縦走潰瘍

71.107I43 55歳の男性、駅のホームで立ちつくしているところを保護され、遺書を持っていたため、会社の上司に伴われて受診した.2ヵ月前から1日中憂うつで仕事も手につかずに悩んでいたという.「勇気はないので死ねない」、「迷惑をかけるのが嫌なので1人にして欲しい」と帰宅を希望する.

まず行うべき対応はどれか.

е

- a 1人で帰す.
- b 精神科に入院させる.
- c すぐに警察に連絡する.
- d 抗うつ薬を点滴静注する.
- e 自殺念慮について具体的に尋ねる.

72.106D53 改変 72歳の女性.手のふるえと動きにくさとを主訴に来院した.1年前から右手がふるえるようになった.2ヵ月前から歩行が不安定になり、歩幅が狭くなったという.顔面筋の動きに乏しい.安静状態で左手が規則的にふるえる.四肢に強い筋強剛があり、特に右側で顕著である.筋力に異常を認めない.感覚障害を認めない.腱反射に異常はなく、病的反射を認めない.

治療薬として適切なのはどれか.2つ選べ.

c, e

- a バルプロ酸
- b スルピリド
- c エンタカポン
- d ハロペリドール
- e レボドパ

73. 106D58 67歳の男性. 頭痛と右下眼瞼の痛みとを主訴に来院した. 3ヵ月前から右眼に流涙があり、3日前から右下眼瞼に痛みを伴うようになった. 2日前から頭痛があり、次第に増悪してきたため受診した. 体温 38.5℃. 脈拍 76/分,整. 血圧 118/76mmHg. 右下眼瞼の腫脹を認める. 項部硬直を認める. 血液所見:赤血球 420万, Hb 13.0g/dL, Ht 37%, 白血球 21,000 (桿状核好中球 20%, 分葉核好中球 60%, 好酸球 1%, 単球 2%, リンパ球 17%),血小板 21万. CRP 18mg/dL. 右下眼瞼の写真を次に示す.

直ちに行うべき治療として適切なのはどれか. 2つ選べ. a, d

- a 切開排膿
- b 結膜囊の洗浄
- c 下眼瞼の睫毛抜去
- d 抗菌薬の点滴静注
- e アシクロビル眼軟膏の塗布



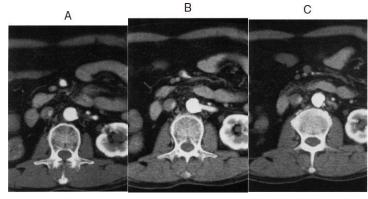
74. 106A49 45 歳の女性. 左下腿の皮疹を主訴に来院した. 1 ヵ月前に左下腿に紅斑が生じ、急速に拡大してきたという. 30 歳時に潰瘍性大腸炎と診断され、自宅近くの診療所でメサラジンの内服治療を受けている. 意識は清明. 身長 158cm、体重 52kg. 体温 36.2℃. 脈拍 76/分、整. 血圧 134/80mmHg. 呼吸数 16/分、左下腿に巨大な潰瘍を認める. 潰瘍面の細菌培養は陰性である. 左下腿の写真を次に示す.

診断として最も考えられるのはどれか.

- a 蜂巢炎
- b 環状肉芽腫
- c 基底細胞癌
- d 壊死性筋膜炎
- e 壊疽性膿皮症



76. 108D24 67 歳の男性. 腹部全体の持続する強い痛みを主訴に来院した. 3 年前から虚血性心疾患と心房細動とで通院中である. 10 時間前に腹痛が突然出現し、徐々に増強した. 体温 36.7℃. 脈拍 88/分,不整. 血圧 124/78mmHg. 呼吸数 16/分. SpO2 97% (room air). 腹部は全体に膨隆し、腸雑音を聴取しない. 腹部全体に圧痛と Blumberg 徴候とを認める. 血液所見:赤血球 512 万, Hb 16.2g/dL, Ht 48%,白血球 12,800 (桿状核好中球 28%,分葉核好中球 46%,好酸球 2%,好塩基球 1%,单球 6%,リンパ球 17%),血小板 18 万. 血液生化学所見:総蛋白 7.6g/dL,アルブミン 4.6g/dL,総ビリルビン 0.6mg/dL,AST 112IU/L,ALT 35IU/L,LD 482IU/L (基準 176~353),アミラーゼ 124IU/L (基準 37~160), CK 186IU/L (基準 30~140). 腹部造影 CT (頭側から順に A,B,C) を次に示す.



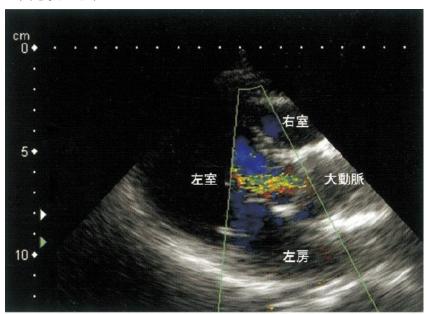
最も考えられるのはどれか.

- a 腸重積症
- b 消化管穿孔
- c 腸管軸捻転症
- d 絞扼性イレウス
- e 上腸間膜動脈閉塞症

- 78.2 歳半男児。硬貨を飲み込んだかもしれないと母親と受診。発熱、咳などなし。次に行うことは?d
  - a 胸腹部 MRI
  - b 胸腹部造影 CT
  - c 腹部超音波
  - d 胸腹部 X 線
  - e 上部消化管内視鏡
- 80. 106G46 53 歳の女性. 会社の健康診断で心雑音を指摘され来院した. 脈拍 72/分, 整. 血圧 132/60mmHg. 胸骨左縁第 3 肋間を最強点とする II/VI度の拡張期雑音を聴取する. カラードプラ心エコー図を次に示す.

e

a, e



拡張期

- この疾患で拡張期雑音を聴取しやすくするための手法はどれか.
  - a 過換気にさせる.
  - b 下肢を挙上させる.
  - c 右側臥位にさせる.
  - d 頸動脈洞マッサージを行う.
  - e 座位で上半身を前傾させる.
- 81. 女性の外陰部に有痛性の水泡。核内封入体あり。正しいもの2つ
  - a 両側性

b

С

- d 癌化する
- e 再発する

85. 105D41 生後 1 日の新生児. 頻回の嘔吐を認めている. 身長 48.0cm, 体重 3,026g. 心音と呼吸音とに異常を認めない. 腹部はやや膨隆しており, 軟である. 吐物 (A) と腹部 X 線写真 (B) とを次に示す.

手術治療が予定された.

Α

В

適切な術式はどれか.

a 噴門形成術

- b 幽門筋切開術
- c 人工肛門造設術
- d 中腸軸捻転解除術
- e 十二指腸・十二指腸吻合術



## 番号不明

放射線感受性の高い腫瘍はどれか.

- a 下咽頭癌
- b 食道癌
- c 胃癌
- d 大腸がん

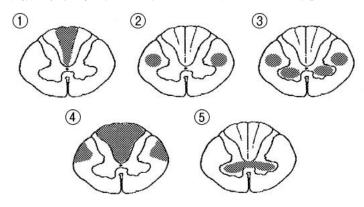
е

102I77~29歳の男性. 両側の股関節痛を主訴に来院した. 6 ヵ月前から誘因なく両側の股関節痛が出現し、徐々に増強して跛行を自覚するようになった. 既往歴は特にない. 飲酒はウィスキー360mL/日を6年間. 股関節 X 線単純写真正面像を次に示す. 考えられるのはどれか. d

- a 骨髄腫
- b Ewing 肉腫
- c 変形性股関節症
- d 大腿骨頭壊死症
- e 神経病性関節症



103A53 46 歳の男性. 両手の脱力を主訴に来院した. 1年前から右手の筋力低下を認め, 1ヵ月前から左手の筋力低下が出現した. 右側優位で両側上肢遠位部の筋力低下と筋萎縮とを認める. 四肢腱反射は亢進し病的反射がみられる. 感覚障害と膀胱障害とを認めない. 血液生化学所見では CK 値は正常である. 末梢神経伝導速度は正常である. 推定される頸髄レベルでの病変の模式図(①~⑤)を次に示す.



--- 病変部

適切なのはどれか.

- a ①
- b 2
- c ③
- d 4
- e (5)

 $\mathbf{c}$